



ABILITY

ABILITY Pro徹底攻略！

その3 ハモリの自動作成機能を搭載したボーカルエディタ

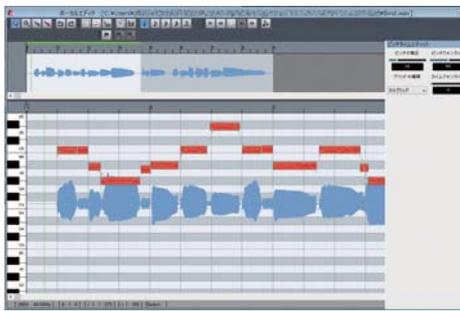
ABILITY Proには、先代のSinger Song Writer 10 Proから追加された独自のボーカル補正機能「ボーカルエディタ」がさらに進化した形で搭載されています。その大きなトピックが、ボーカルを基にした3声のハーモニーを作成してくれる新機能「AUTOハーモナイズ」です。今月は、ABILITYのオーディオ周りの機能の中からボーカルエディタに着目し、その基本的な機能と、新しいAUTOハーモナイズ機能について紹介しようと思います。(文：平沢栄司)

ボーカルエディタでできること

それでは、ABILITYシリーズ共通で利用できる「ボーカルエディタ」の基本機能から解説しましょう。簡単に言ってしまうと、録音したボーカルのピッチ、発音タイミング、長さをマウス操作で簡単に修正できるエディタ画面です。外部のプラグインなどには頼らずに、完全なオリジナル機能として実装されているのが特徴で、他の機能と画面デザインやユーザーインターフェイスに統一感があってスムーズに作業を進められます。

まず、ボーカル波形の右クリックメニューからボーカルエディタを呼び出すと、MIDIトラックのピアノロールエディタによく似たボーカルエディタ画面が開き、ボーカルのピッチや発音タイミングを示すノートが表示されます(画面1)。エディットの操作もピアノロールと一緒に、画面上のノートを上下にドラッグすればピッチを変更することができ、先端や終端をドラッグすると自動的にタイムストレッチが作動して発音開始のタイミングやノートの長さ(発音時間)を修正できます。

また、選択されているノートのピッチを一括して矯正したり、発音タイミングにクオンタイズをかけるピッチタイムエディット機能や、シンセサイザーのように任意の区間にビブラートを加える機能などもあります。これらを駆使すれば、実力以上のボーカルに仕上げたり、大胆な設定をすることで元のボーカルとは異なるエフェクティブな歌声に作り変えるなんてことも可能です。



画面1 ボーカルエディタの画面。波形を背景にしたピアノロールにボーカルがノートとして表示される。右側には「ピッチタイムエディット」の画面をドッキングしてみた

新機能「AUTOハーモナイズ」を使ってみよう

続いては、ABILITY Proならではの「AUTOハーモナイズ」を見ていきましょう。これは、ボーカルのフレーズを基に最大3声のハーモニーを作成してくれる機能です(ボーカルと合わせれば4声)。注目は、アレンジ機能やMIDIフレーズトラックと同様に曲のキーとコードトラックに入力されているコード進行に応じてピッチが変換される点。オーディオのピッチチェンジにありがちな平行移動的なトランスポーズとは違う、音楽的なハーモナイズが可能となっています。

作成するハーモニーのパートについては、AUTOハーモナイズの画面でセッティングと試聴が行えます(画面2)。まず、3つのVOICEは、それぞれON/OFF(MUTE)と任意のインターバルの設定が可能。例えば、3度下ハモリが欲しいなら、VOICE 1以外をMUTEにして「-長3度(4音半)」のインターバルを設定すればOKとなります。また、ハモリのフレーズはコードトーンのみで構成するか、スケールを用いたアプローチノートも加えるかを選択することが可能なので、歌メロの動きやハーモニーの用途(ハモリ/バックコーラス)に合わせた自然なハーモニーが作れます。

作成されたハーモニー・パートのエディットも可能

セッティングが決まってOKボタンをクリックすると、ボーカルエディタ上にハーモニーのパートが色違いのノートで作成/表示されます(画面3)。ここで特筆すべきは、オリジナルのボーカルと同様に、エディタ上に表示されているハモリのノートを操作してピッチやタイミングのエディットが可能な点です。もし、作成されたハモリのフレーズに気に入らないところがあれば、後から思い通りに修正することができます。上級者になれば、AUTOハーモナイズ機能でとりあえずハモリ用のVOICEを作ってから、打ち込み感覚で各ノートを操作して自由



画面2 AUTOハーモナイズの設定画面。ここで、3声分のピッチのインターバルなどを設定し試聴の後に実行すると、ハーモニーが作成される

にフレーズを作っていくこともできるでしょう。

また、ボーカルエディタのツールバーが右クリックメニューからミキサー画面を開くと、オリジナルのボーカルと作成された各ハーモニーのパートの音量バランスを調整することができます。各パートのソロ再生やミュートの指定もできるので、いずれかのパートのフレーズをエディットしたい時の試聴にも重宝するでしょう。

各パートは個別にオーディオトラックに書き出せる

ボーカルエディタ上でハーモニーを再生している間は、ボーカルのトラックから一括して出力されています。そのままではミキシングに不便なので、ハーモニーのパートが仕上がったならオーディオトラックに書き出しておくのと良いですね。操作は簡単、右クリックメニューから「オーディオトラックに出力」を実行するだけです。ちなみに、設定を変更すれば、ボーカルエディタ上での再生と同様にボーカルとハーモニーを1つにまとめて出力することもできます。

また、出力時のちょっとしたTipsとして、ボーカルエディタ上のミキサーを使って音量バランスを調整していたなら、書き出す前にデフォルトの状態に戻しておくことをお勧めします。というのも、ミキサーで音量を下げたまま書き出すと波形のレベルが小さくなってしまい、後で音量を上げたい時に不利だからです。ボーカルと同じ音量のまま書き出して、ソングのミキサーで音量を調整するようにしましょう。

このように、ボーカルの補正とAUTOハーモナイズによるハモリの作成が主な用途となります。しかし、極端に補正した時の声質の変化が個性的で、これを生かしてハーモニーを加えればポコーダー的なエフェクターとしても応用できそうです。ボーカルエディタ&AUTOハーモナイズはアイデア次第で面白い効果が作れるので、いろいろと試してみてください。



画面3 画面1のフレーズに3声のハーモニーを加えた状態。下に並ぶ色違いのノートがハモリ・パートだ。ミキサーでそれぞれの音量を調整することができる